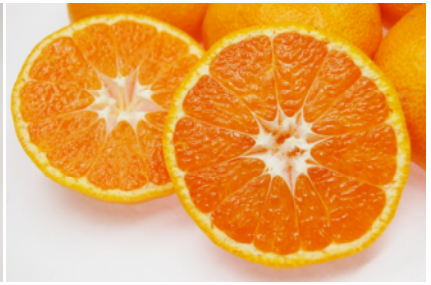


愛媛の中生温州の代表格！「南柑20号」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	12月上旬から12月下旬まで
特長	早生温州に比べ、コク（味の濃さ）が増しています。
備考	愛媛県内の中生温州栽培面積の7割強を占める代表品種です。また、本県露地栽培みかんの全栽培面積の2割弱を占める、「宮川早生」に次ぐ主力品種でもあります。中生温州には、「南柑20号」のほか、「愛媛中生」、「石地」などがあります。

2. 果実の食べやすさ

果皮	<p>①：手で簡単にむけます。</p> <p>②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。</p> <p>③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。</p>
袋	<p>①：薄く、食べてもほとんど気になりません。</p> <p>②：やや薄く、袋ごと食べることができます。</p> <p>③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。</p>
種	<p>①：ありません（まれに少量あることもあります）。</p> <p>②：あります。</p>

3. 来歴

1924年以来数度にわたり愛媛県南部において村松春太郎氏（後に愛媛県南予柑橘分場の初代分場長に就任）が温州みかんの優良系統探索を行っていたところ、1926年に同県宇和島市の今城辰男氏の園地で発見された系統を優秀であるとして、これを南予柑橘分場にちなみ「南柑20号」と命名しました。

※祖父母世代不明のため、3世代系譜図は省略